2021 年 9 月　第 19 巻 第 9 号

かく語りき－聖人の言葉

「するとヤショーダーはこうおっしゃったのだよ、『ただ、私が自分の身体、心および舌をあげて神に仕えることができますように、この目で彼の信者たちを見ることができますように、この心で彼を瞑想することができますように、そしてこの舌で彼の御名と栄光を唱えることができますように、私を祝福してくださいませ』と。」
…シュリー・ラーマクリシュナ

「祈りとは、言葉という翼をつけて、天に向かって飛翔することだ」
…預言者ザラスシュトラ
（ゾロアスター教の開祖）

今月の目次

・かく語りき――聖人の言葉
・お知らせ
・2021 年 10 月、11 月の生誕日
・2021 年 7 月　逗子例会　講話
「シャンカラーチャーリヤの賛歌　バジャ・ゴーヴィンダム」第 1 部
スワーミー・メーダサーナンダ
・忘れられない物語
・今月の思想

～お知らせ～

コロナウイルスの影響のため、引き続きライブストリーミングやズームなどの配信を中心に、皆様にお届けいたします。　ズームに関するお問い合わせ、お申込みは下記にメールをお送りください。

zoom.nvk@gmail.com

今月の予定

2021 年 10 月、11 月の生誕日

スワーミー・アカンダーナンダ
10 月 6 日　（水）
スワーミー・スボダーナンダ
11 月 16 日（火）
スワーミー・ヴィッギャーナーナンダ
11 月 18 日（木）

・日本ヴェーダーンタ協会の行事予定はホームページをご確認ください。

https://www.vedantajp.com/

2021 年 7 月逗子例会　講話
「シャンカラーチャーリヤの賛歌
バジャ・ゴーヴィンダム」　第 1 部
スワーミー・メーダサーナンダ

2018 年 11 月の月例講話では、シャンカラーチャーリヤの有名な賛歌「バジャ・ゴーヴィンダム」をとりあげました。　その後さらに 3、4 回「バジャ・ゴーヴィンダム」についての説明をする予定でしたが、諸事情により延期となっていました。それを今月から再開いたします。

前回のおさらい

前回からずいぶんと間隔が空いたので、このテーマについての大事なポイントをおさらいします。シュリー・シャンカラーチャーリヤは、インドの偉大な聖者で哲学者です。彼の生誕日と生涯についてはさまざまな意見がありますが、おおむね認められているのは、西暦 788 年に生誕し、身体を去るまでわずか約 32 年間だったということです。シャンカラーチャーリヤは、本当は 16 歳までしか生きられない運命でした。しかしその歳までに人生の使命を果たしきれなかったので、シヴァ神が使命を全うできるように、さらに 16 年の寿命を授けました。

私たちは皆、出来る限り長生きがしたいですが、偉大な聖者にはそういった生に対する執着がないので、仕事が終われば身体を脱ぎ捨てます。若干 39 歳でマハーサマーディ［身体を去ること］に入ったスワーミージー（スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ）の生涯もそうでしたね。

奇跡のような出来事

シャンカラーチャーリヤの生涯おいて、とても信じられない奇跡的な出来事が多くありました。主イエスやその他の偉大な神人の生涯をみても同じような信じられない出来事が多くありましたが、それらはほとんどの場合、本当に起こったことです。

シャンカラの場合、例えばたった 7 歳で家族を放棄して僧侶になることを覚悟しました。その時、父親はすでに亡くなっており、母親を愛してはいましたが、家庭生活を放棄することに決めたのです。しかし、シャンカラの母親はこの一人息子にとても執着していたので息子が家族を捨てることに賛成しないことを、シャンカラは知っていました。

折よく次のようなことが起こりました。川で沐浴をしていたシャンカラがワニに噛まれたのです。息子がワニから逃れようともがいているのを、母親は泣きながら絶望的な気持ちで見ていました。シャンカラは叫びました、「お母さん、お母さん」「どうか今、出家することをお許しください。私が出

家の誓願を立てて心安らかに死ねるようにしてください」。 ワニに噛まれている息子に対してそれ以外に方法がないと悟った母親が「はい、そうしてください」と返事をしたその瞬間、ワニはシャンカラを離して泳ぎ去ったのです。二人は共に家に帰りました。そして約束は果たされました。母親は正直な人でしたので、悲しくても約束を守ったのです。しかし母親は一つの願いを伝えました「息子よ、私が死の床についたときには必ず会いに来てください」と。シャンカラは「はい、お母さんがお亡くなりになる時には会いにきます」と約束し、7 歳か 8 歳の時に僧侶になるために家を出ました。

その後グルが見つかり、僧侶になる誓願を立て、熱心な霊的修行を積み、ニルヴィカルパ・サマーディという最高の状態に達しました。シャンカラの生涯の最初の 16 年はあっという間に過ぎました。しかし、哲学書の執筆、ヴェーダーンタを広めること、インドの四隅にヒンドゥ教の基礎となる僧院を設立することなどの目標をまだ達成していませんでした。どれもまだ完成していなかったので、シャンカラはこれらの仕事を完結させるためにさらに 16 年間の人生が与えられました。そしてシャンカラは聖典と聖典の注釈を書き、賛歌を作り、インド中を広く遍歴しました。

討論の伝統

当時、ヒンドゥ教とは別に、仏教、ジャイナ教、カパリカス（タントラの実践）、チャルヴァクス（唯物論の実践）など、さまざまな哲学がありました。このような背景から、当時の人々はほとんど本物のヒンドゥ教というものを知りませんでした。その頃、多くの哲学の学派の学者たちの間には、ひとつの伝統がありました。それは、討論をして負けた方の学者は、対戦相手の見解を受け入れなければならない、というものです。

ヒンドゥ教に反対の立場をとる哲学の学派の哲学者たちは、シャンカラに論破されヒンドゥ教に改宗しました。また、シャンカラはインドの東西南北の 4 か所に僧院を作りました。シャンカラの生涯は多く書かれていますが、そのすべてが「シャンカラのディグヴィジャヤ」という同じタイトルがつけられています。それは「多くの場所を聖典の討論で征服したシャンカラ」を意味します。

当時の仏教徒はほとんどが虚無主義者（ニヒリスト）で、「空」や「無」を信仰していました。当時の多くの人々は「無」の思想に混乱していました。その混乱はある意味今日でも続いています。ジャイナ教では、多くの考えがさまざまな方法で述べられているので、実のところどれが本当の意味なのか、

混乱を引き起こすこともありました。カパリカスはタントラを実践していましたが、実際には宗教の名のもとに感覚の快楽にふけっていました。チャルヴァクスは心と感覚を超越するどんな実在も信じていませんでした。シャンカラはそれらの哲学の哲学者たちを討論大会に招きました。その頃の討論には二つの決まり事がありました。討論の敗者は①勝者の見解を受け入れず焼身自殺する、②勝者の見解を受け入れ採用する、のどちらかを選ぶことができたのです。シャンカラの見解を受け入れるよりはと、実際に焼身自殺を図った仏教徒たちもいましたが、シャンカラの大変忠実で献身的な信者になった者もいました。

このようにして、シャンカラは多くの対立する哲学者や信者を征服しましたし、ヴェーダーンタを説いて回ることで、本物のヒンドゥ教を再興させ、生き返らせたのです。シャンカラはヴェーダーンタに関する見解をさらに伝えるために、ヴェーダヴィヤーサ作のブラフマ・スートラという学術書の注釈書を書きました。また、12 のウパニシャドの注釈書や、識別の珠玉ヴィヴェーカ・チューダマニなど、いくつかの補助的なヴェーダーンタ文学を書きました。それだけではなく、シャンカラはヴェーダーンタ哲学を解説するために、多くの賛歌も書きました。

実用本位の哲学者

シャンカラーチャーリヤがこれまでに述べた数々のことを行ったということは、ある意味非常に大きな矛盾を含んでいます。なぜならヴェーダーンタは言います「至高の実在だけが存在し、それ以外の私たちが見るすべてのあらわれは幻惑に過ぎない。真理だけが存在する、つまり、ブラフマン、純粋な意識、だけが存在する。他の全てのものは単なる見せかけに過ぎない。ブラフマンすなわち純粋の意識だけが実在である」と。そのような教えを信じる者は、神や女神という神格の礼拝を霊的無知の証しだと考えます。

だから、純粋な不二一元（非二元）論者たちは、神や女神への礼拝を嫌い、礼拝する人たちのことを至高の実在を知らない霊的無知な人である、と主張していたのです。シャンカラの比類のなさは、純粋な非二元論者で至高の実在の存在の信者でいながら、さまざまな神に敬意を払う多くの賛歌を作ったことにあります。それだけでなく、彼は設立した僧院で神の礼拝を始めました。シャンカラは純粋な非二元論を提唱すると同時に、二元論者である余地も認めました。それには次のような理由があります。霊的求道者が最初から至高の実在を理解するのは難しい。だからいくつかの段階を踏むべきである。一般的な人びとはまず、神々を礼拝するという霊的実践から始めるべきだ。

そして最終的にさまざまな霊的実践を通して霊性の生活が進歩すれば、ブラフマン、至高の実在を理解するようになる、というわけです。その意味において、シャンカラは実践的で実利的な非二元論の哲学者でした。

インドは多くの深淵な哲学者を輩出してきましたが、インドだけでなく世界中で非常によく知られ、今も広く研究されている人物はシャンカラーチャーリヤです。シャンカラは、鋭く、深く、深淵な知的知識を示しました。それはたぐいまれなもので、今でも比類がありません。もしあなたがシャンカラーチャーリヤの注釈書を学べば、そのことがよくわかるでしょう。

また、二つのことが明らかになります。一つは、霊性の真理に達するために、シャンカラはしばしば相手の哲学に反論した、ということです。例えば、ヴェーダーンタの霊性の真理を明確に述べるための方法として、仏教徒の逆の見解をもち出し、それを論破しました。別の仏教論議が出てくると、またそれに応酬します。このようにして、自らの哲学を提示しながら、最終的には相手が反論できない結論に達するのです。二つ目は、そのような知性は東西の哲学界の中でも類いまれであった、というだけでなく、シャンカラはその点において非常に独創的であったということです。

私はあるキリスト教宣教師の言葉を思い出します。シャンカラの反論できない非二元論哲学のせいで、インド人をキリスト教に改宗することはできなかった。

シャンカラの賛歌は皆に響く

学者の間では広く読まれているシャンカラの注釈書は深い知的洞察力がなければ理解できないので、一般的な人がよく知っているのはシャンカラの賛歌です。シャンカラはさまざまな神に対する多くの素晴らしい賛歌を作りました。それらは今でも唱えられ歌われています。インドを訪れると、多くの人がガンジス川やその他の川で沐浴をしながらシャンカラの賛歌を唱えているのを聞くことができます。数えきれないほど多くの賛歌が愛され、唱えられ、楽しまれています。その中の一つが今日のテーマ、バジャ・ゴーヴィンダムです。

シンプルかつ美しい感性で作られたシャンカラの賛歌の特徴は、一つは神々に対する大いなる尊敬を示していることです。またシャンカラは、無執着、欲望の放棄、心のコントロール、感覚のコントロール、そして人生の究極の最終目標として真理の悟りの必要性を強調します。それと同時に神の恩寵もある、と強調します。これらがシャンカラの作った賛歌の 3 つの特徴です。また、もっぱら霊的な生活と放棄

だけを歌う賛歌もあります。

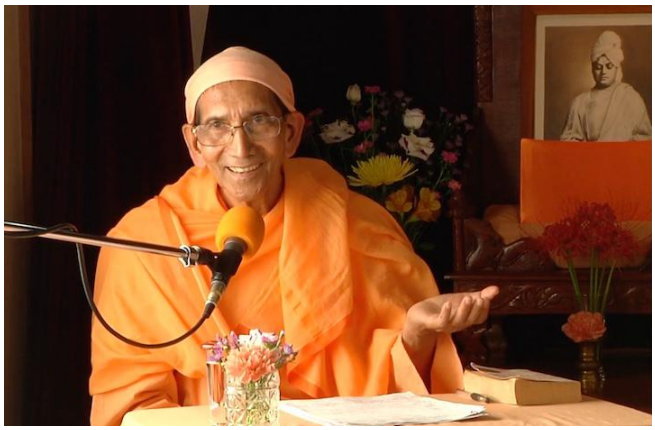
放棄を歌う賛歌の中で私が好きで毎日の沐浴のときに口ずさむのは、カウピーナ・パンチャカムです。

ヴェーダンタ　ヴァケーシュ　サダ　ラマント
ビクシャンナマトレーナ　トゥチャトゥシュチマンタ
アソカマンタカラレ　チャランタ
カウピーナヴァンタ　カル　バギャヴァンタ

祝福されて幸運なのは：
腰布一枚を身につけている者。
常にヴェーダーンタの言葉と教えを楽しんでいる者。
托鉢で得られる食べ物に満足している者。不安や心の痛みなく自由に歩き回る者。
そんな人が幸運な人だ。

これは僧侶としての生活を受け入れた人のための賛歌ですが、バジャ・ゴーヴィンダムは主に家住者向けの賛歌です。ほとんどの場合、家住者の生活は、執着、欲望、感覚の楽しみ、名誉欲、地位欲で占められています。家住者の理想的な人生の目標とは何ですか？バジャ・ゴーヴィンダムはそれをテーマとした注目すべき賛歌です。一般的な家住者の人生の生活の結果はどのようなものですか？

家住者の人生は、平安のなさ、心配、ストレス、イライラ、幻惑、束縛、など多くの苦しみにつながっています。だからバジャ・ゴーヴィンダムでシャンカラは言います。現在の生き方を変えたいなら、真の平安、喜び、自由を得たいなら、君たちが今、何をしているか、そしてその代わりに何をすべきかを教えてあげよう、と。これがバジャ・ゴーヴィンダムの要旨です。



劇的な変化はない

日本の仏教寺院では伝統的に仏教の教えの信仰歌はほとんどありません。神道の伝統では、ほんの少しの宗教的な歌と踊りがあります。それに比べてインドの宗教的な歌やダンスや賛歌詠唱には長く豊かな伝統があります。例えば、日常生活の中でも人々がシャンカラの詩節を歌うのを聞くことができます。人気歌手はシャンカラの詩節を自らの音楽スタイルで歌ってレコーディングしますし、皆はそれを聞くのが好きです。

もちろんインドでは非常に多くの

人々が賛歌を聞いたり歌うことが大好きですが、ここ日本でも皆さんの多くがインド賛歌を理解して楽しむようになりました。ではなぜこれらの賛歌は信者にほとんど霊的な影響を与えないのでしょうか？　答えは、賛歌が好きな人でも、賛歌や信仰歌の歌詞が伝えようとしていることを、深く熟考しないからです。歌詞は良いし音楽の伴奏もアレンジも良い、プロの歌手が歌い、素晴らしい作品ができたとします。もちろんその作品は私たちに影響しますが、その影響は長続きせず、歌手や聞き手の人生が変わるほどのことはありません。問題は、歌や歌詞ではなく、これらの賛歌を歌ったり聞くのが好きな私たちの側にあります。

だからここで私が指摘したいことは、これからバジャ・ゴーヴィンダムの詩節の意味を議論したり賛歌を聞いたりしますが、大事なのはバジャ・ゴーヴィンダムが伝えようとしているメッセージだ、ということです。私たちはまずバジャ・ゴーヴィンダムのメッセージを理解して、それからそのメッセージを吸収するように努力するべきです。シュリー・ラーマクリシュナは「世俗の人の神への信仰は、熱く熱したフライパンに水を落としたように、瞬間的なものである」と具体的な例をあげました。私たちの心では賛歌のインパクトはその程度のものです。だからこそ、マナナ（熟考）をして、大事なメッセージを我がものとしなければなりません。ヴェーダーンタには、シュラヴァナ（聞く）、マナナ（熟考）、ニディディヤーサナ（深く繰り返し黙想する）という霊的実践の段階がありますが、私たちが賛歌を聞くときもこの同じ原則を当てはめるのです。このことを真剣に考えてしっかりと認識してください。

バジャ・ゴーヴィンダムの言葉を理解する

まず、バジャとゴーヴィンダムという二つの言葉をとりあげます。バジャ（bhaja）という動詞の語根はバジ（bhaj）です。バジの意味は広く、礼拝、瞑想、尊敬という意味ですが、すべてを含めて最終的には、霊的実践すべてを指します。そのような霊的実践（バジャ）の対象は誰でしょう？　霊的実践の焦点はゴーヴィンダです。クリシュナ神には多くの名前があるのですが、その一つがゴーヴィンダです。しかし、ここでのゴーヴィンダは単にクリシュナ神としてではなく、至高の実在、神の象徴としてとらえてください。

次に、ゴーヴィンダ（Govinda）という言葉は二つの言葉からできています。一つは ゴ（go）で、もう一つは ヴィド（vid）です。ゴ（go）は名詞で、ヴィド（vid）は動詞ですが、その二つを合わせてゴーヴィンダ（Govinda）とな

ります。名詞 ゴ(go)にはいくつかの意味があります。そのひとつは「牛」で、さらに深い意味は「土地」、もう一つの意味は「天国」、さらに「知識」という意味もあります。ヴィド（vid）の意味は「達成する」「得る」「知る」です。この二つの言葉を合わせたゴーヴィンダとは、「私たちが天国に達することを助けてくださるお方」「そのお方がどのような存在かを知ることで、人は天国へと到達するようなお方」という意味です。また、「全知なるお方」、「遍在なるお方」、という意味や、さらには「感覚の対象を出現させるお方」という意味もあります。ですので、本当はゴーヴィンダとは、さまざまな姿をとる至高の実在という意味なのです。サンスクリット語の美しさは、ひとつの単語に非常に多くの意味があり、その中にはとても深い意味があることです。

ムーラマテについて

次にシャンカラーチャーリヤはムーラマテ（mūḍha-mate）と言います。ムーダ（mūḍha）の意味は、「幻惑された人」という意味で、マテ（mate）は「知性」を意味します。つまり、ムーラマテとは「幻惑された知性をもつ人（愚かな者)」という意味です。文法上のルールでムーラマテ mudlha-mate と発音します。愚かな者とは、知識がない人という意味ではありません。偉大な学者であっても霊的な見方で妄想というマーヤーの力に惑わされている人は愚かな者です。そしてシャンカラはこの節で「幻惑されている人は皆、ゴーヴィンダ、神、至高の実在を礼拝し瞑想しなさい」、と言っているのです。これが冒頭で繰り返される歌詞です。私のあとに続いてください。

バジャ・ゴーヴィンダム　バジャ・ゴーヴィンダム（バジャ・ゴーヴィンダム）

ゴーヴィンダ　バジャ　ムーラマテー

私が 3 回バジャ・ゴーヴィンダムを繰り返したのは、皆さんに印象付けて、しっかりと根付かせるためです。（笑い）　私は皆さんがこの偉大な賛歌のメッセージに集中できるように、皆さんの意欲を高めようとしているところです！　もちろん、「私は幻惑されている」、「(霊的な見方で) 私は無知である」ということを認めることは容易ではありません。だから、シャンカラが私たちのことをムーラマテ（愚かな者）と言うとき、そう言われるのが嫌かもしれませんが、霊性の真実、霊性の生活、そして霊的生活の基準に気づけば気づくほど、自分がいかに幻惑の状態であるかが分かります。そしてシャンカラが私たちに対してムーラマテというのは正しい、という言うことが理解できるのです。しかし、シャンカラには悪意も悪感情もありません。むしろ彼の真の願いは、私たちが自分は幻惑され

ているということに気づくことです。なぜなら、私たちは幻惑の結果、多大な苦しみを受け、生と死の繰り返しという苦痛の犠牲になっているのですから。シャンカラは私たちの幻惑を取り除き、永遠の平安を享受する道を私たちに示しています。

時々シュリー・ラーマクリシュナが、Mさん（マヘンドラナート・グプタ『ラーマクリシュナの福音』の著者）や、スワーミージー（スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ）や、他の直弟子を厳しい言葉で叱る場面があります。後になって、スワーミージーも兄弟弟子たちを同じように叱りました。しかし、叱られている者は皆、この叱責の背後には深い考えと大きな愛があることを知っていました。ですから、このバジャ・ゴーヴィンダムの中でシャンカラが「私たちは皆愚かな者である」と言っても、誰もそのことを気にしません。なぜなら、聖者であるシャンカラは、私たちが現在の嘆かわしい状態に気づき、自分自身をより良く変革させるために、手助けしてくださっているからです。

賢い人になるための基準とは何でしょうか？　賢い人とは、実在と非実在、一時的と永遠、有限と無限を識別できる人です。賢い人は、非実在、永遠でないもの、有限なものを放棄し、実在、永遠なもの、無限なるものにだけ集中します。それができる人だけが賢い人です。識別、有限なものの放棄、無限なものへの集中、を実践できない人、有限と無限の違いを区別できない人、一時的で有限なものに相変わらず夢中な人、そのような人びとをムーラ（愚かな者）と呼びます。その愚かさの結果として愚かな者は、死の恐怖のような恐れと不安を取り除くことができないのです。次の行でシャンカラは特にこの死の恐怖について述べています。

第一節の最後は次のようになっています。

サンプラープテ　サンニヒテ　カーレ

ナヒ　ナヒ　ラクシャティ　ドゥクリン･ラナネ

歌詞の意味は、「死の時がやってきたなら、文法の知識のような学問的知識は何の役にも立たない」です。

「ドゥクリン･カラネ」はサンスクリット語の文法に関する格言です。つまりこう言いたいのです、文法の超難解な規則、現世的な科目、こみ入った内

容のヴェーダーンタ哲学でさえも、どれだけ暗記できたとても、もしその人が単なる学者で実践をしないのなら、そんな知識は何の役にも立たない。恐怖、緊張、挫折、平安のなさ、などの人生の問題解決の助けにならないのだから。

では、どういった人が死を恐れますか？　それは自分を身体と同一視している人です。その人は死を恐れます、なぜなら身体が死ねば、自分もまた死んで存在が消滅すると想像し信じているからです。誰も消滅したくありません、皆永遠に生きたいです。でも、自分の身体が死後に焼かれて灰になるか埋葬されるかすると、自分も焼かれたり埋葬されたりして滅びると思います。自分の身体に執着する人は、自分の身体だけでなく他者、例えば家族や友達の身体にも執着します。それだけでなくその人は身体、心、感覚に関する全てのものにも執着します。学者、聖典の学者の中にもそのように執着する人がいます。しかしもし自分の身体と感覚に関する全てのものや人（すなわち一時的なもの）に執着すれば、それらは、変化し、失われ、なくなるので、ひどい苦悩と苦痛に襲われることになります。そのような人は死の恐れによって圧倒されてしまいます。

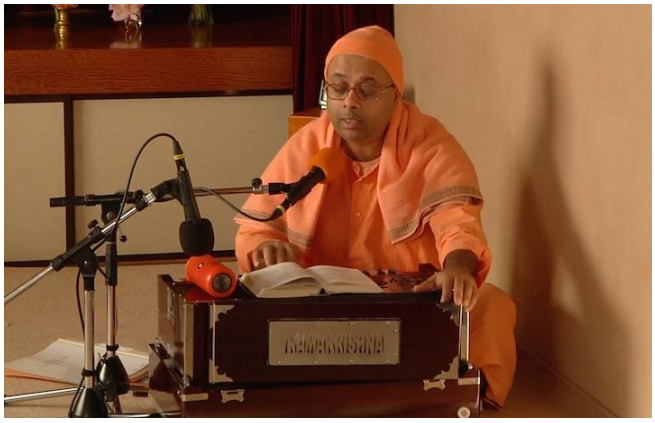
だからシャンカラは言うのです。至高の実在、永遠なる神、無限なる神を瞑想しなさい、学問的知識は死の恐怖を取り除く助けにはならないのだから、と。もし勇気、知識、平安の心をもって死に直面したいなら、シャンカラのアドバイスに従うべきです。

バジャ・ゴーヴィンダム　バジャ・ゴーヴィンダム
ゴーヴィンダ　バジャ　ムーラマテー

シュリー・ラーマクリシュナの生涯を見ると、学業を修めていないという点では無学であったと言えます。しかし、シュリー・ラーマクリシュナが学問に頼ったことがありますか？　絶対ありません。シュリー・ラーマクリシュナははじめから、学問的知識が人生の問題を解決するのには役立たない、と確信していたからです。学問は平安、喜び、知識、自由、という人間の人生の本当の目的を満足させるのには役立ちません。だからシュリー・ラーマクリシュナは最初から人生の目的を達成する方法に集中しました。シュリー・ラーマクリシュナのもとを訪ねたてきた人がたとえ偉い学者であっても感動しませんでした。なぜならシュリー・ラーマクリシュナにとって一番大事なことは、真の知識を持ち、実在、真理に集中していることだったからです。

ここで今日の話は終わりです。来月も引き続きバジャ・ゴーヴィンダムにつ

いてお話しします。



忘れられない物語

「神にはさまざまな姿がある」

二人の人物がカメレオンの色について熱く語っていた。

一人は言った。「あのヤシの木の上のカメレオンはきれいな赤色をしているね」

もう一人が反論した。「いいや、お前さんは間違っている。カメレオンは青色だよ、赤ではなくて」

話のらちが明かないので、いつもその木の下にいてカメレオンのあらゆる姿を見ている人のもとを、二人は訪ねた。

一人が言った。「すみません、あの木のカメレオンは赤色ですよね？」

木の下の人は言った。「そうです」

もう一人が言った「何ですって？そんなばかな。カメレオンは赤色ではなく青色ではないですか？」

木の下の人物は謙虚に答えた。「はい、そうです」

木の下の人物は、カメレオンは常に色を変える動物だということを知っていた。だから、相反する意見のどちらにも「はい」と答えたのだ。

サット・チット・アーナンダも同じようにさまざまな姿をもつ。神の一面だけを見た信者は神の一面だけを知る。しかし、神のさまざまな面を見た信者は「これらの姿の

すべてはひとつの神のものである。なぜなら神は多面的なのだから」という態度をとる。神には姿があり、姿がない。そして、誰も知らない神の姿が多くある。

『ラーマクリシュナ、その生涯と言葉』より
F. マックス・ミューラー

今月の思想

危険からお守りください、と祈るのではなく、危険に直面したときに恐れることがありませんように、と祈ろうではないか。

ラビンドラナート・タゴール

発行：日本ヴェーダーンタ協会
249-0001　神奈川県逗子市久木 4-18-1
Tel: 046-873-0428
Fax: 046-873-0592
Website: http://www.vedanta.jp
Email: info@vedanta.jp